



本県の「地域とともにある学校」の 現在地

今、県内では地域と学校が協働する仕組みとして学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）が浸透してきています。現在の導入率等をお知らせします。

【R7 文科省：公立小・中・義務教育学校コミュニティ・スクール導入率】

	令和2年度	令和7年度
全国	30.7%	71.6%
岩手県	13.3%	97.7%

県内公立高校・県立特別支援学校もそれぞれ100%・93.3%と高い割合です。県内では全国より速く広がっています。

「地域とともにある学校」を目指すうえで、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール：以下「CS」）とともに両輪となるものが「地域学校協働活動」です。その活動を推進する主体が地域関係者で構成する「地域学校協働本部」で、その本部が県内公立学校をカバーしている割合が以下のとおりです。

【R7 文科省：岩手県公立学校における地域学校協働活動本部整備割合】

小・中・義務教育学校	高校	特別支援学校
93.0%	68.3%	13.3%

地域活動となるので、「地域」が限定しやすい小・中・義務教育学校において、浸透している状況です。

次に地域学校協働活動推進員等の配置状況については以下のとおりです。

【R7 文科省：岩手県公立学校における地域学校協働活動推進員等の配置】

地域学校協働活動推進員数	地域コーディネーター数	計
107人	131人	238人

岩手県内の小・中・義務教育学校、公立高校、特別支援学校等は現在478校です。学校数より少ないということは、連携や活動の調整役は、公民館や市民センター職員、市町村生涯学習社会教育担当者がコーディネートしている場合がありますが、学校の職員が行っている場合が多いと感じています。

CSを始めて、まだ日が浅いので、今後は地域学校協働活動推進員等の配置も含め、活動の充実を期待し、活動の成果を学校運営協議会の席上で、委員全員と内容を共有していきたいものです。

また、本県では地域とともに子どもたちを育む運動として教育振興運動（以下「教振」）があげられます。教振の取組とCSにおける地域学校協働活動の

整理が必要だったのですが、少しずつ進んできている状況です。CSが会議体であり、教振は活動が主になる「運動」ですので、どうしても地域学校協働活動と教振の取組が同じような活動内容になり推進する組織のメンバーがCS委員と重複するので、市町村で推進体制を見直している状況とと思われます。既存の組織を残すのか、新たに作ったCSにかかる組織に教振の理念を包含して進めるのかが問われています。CSは関係する法令があり、条例を市町村教委はつくらなければならない、それが終わった今こそ、実効性のある組織づくり体制づくりの調整が必要になってきています。以下の表は「市町村における推進組織の現状」として、市町村域内の教振や地域学校協働活動をどのように統括して推進しているかまとめたものです。

【R6 県教委：教育振興運動の推進状況調査】より
○教育振興運動・地域学校協働活動推進組織の有無

A	B	C	D	合計
16市町村・地区	12市町村・地区	8市町村・地区	0	36市町村・地区

- A…教育振興運動単独組織で推進
 - B…教育振興運動とは別の組織で推進
 - C…教育振興運動の組織と別の組織両方で推進
 - D…推進組織なし
- 【※宮古市は旧市町村単位で実施。計36市町村地区】

また、この調査では「実践組織の事務局の所在」も聞いています。

【R6 県教委：教育振興運動の推進状況調査】より
○教育振興運動・地域学校協働活動推の事務局の設置場所

小学校	中学校	公民館	町内会等	その他
40.1%	19.0%	10.6%	9.6%	20.7%

- ※6割程度の実践区が小中学校に事務局を設置
- ※その他には、幼稚園保育園、高等学校、地区センター等を含む

事務局をどこに置くかは、重要なポイントです。学校発の情報発信はどうしても地域の方の印象が「学校に協力すること」になりがちです。地域あげての活動を目指すのであれば、公民館等に事務局の設置が望ましく、教員の異動にかかわらず活動の継続性が担保できると思います。

県では、教育振興運動推進プラン（2024～2028）において全共通課題「家庭学習の充実」「体験活動の充実」を推進中です。地域発の教育活動で児童生徒及び学校を巻き込むことが理想です。

（所長：千葉 憲一）

令和8年度 研修講座のお知らせ

※講師の都合などにより変更になる場合があります。掲載の写真は令和7年度の事業の様子です。

新任生涯学習関係職員研修講座

5/1(金)~12(火)オンデマンド研修

5/13(水)集合研修

生涯学習・社会教育の推進に関する基本的事項及び職務に関する研修



ICTスキルアップ研修講座

① 5/8(金)・11(月)

② 5/29(金)

③ 9/18(金)

④ 12/ 2(水)



- ① オンライン会議・研修の実施方法やICT活用による魅力的かつ効果的な事業実施に関する研修
- ② オフィスソフトの使い方に関する研修（PowerPointによるチラシ・広報紙の作成テクニック等）
- ③ オフィスソフトの使い方に関する研修（WordまたはExcel活用講座）
- ④ オンライングラフィックデザインソフトの使い方に関する研修（Canva活用講座）

社会教育・地域づくり関係職員等研修講座

6/15(月)

社会教育・地域づくり関係職員等としての必要な専門的事項に関する研修



コミュニケーションスキルアップ研修講座

8/4(火)

生涯学習関係職員等に不可欠な実践的対人スキルの向上を図る研修



学校と地域の連携・協働研修会

8/7(金)

学校・地域関係者を対象に、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や地域学校協働活動（教育振興運動等）の事業理解を促し、学校と地域の連携充実を図る研修



子育て・家庭教育セミナー

① 7/9(木)

② 9/7(月)

③ 11/27(金)

子育て・家庭教育支援にあたる人材の資質向上とネットワークを広げる研修

① 乳幼児期からのデジタル機器使用の影響と子育て支援

② 子どもに対する性暴力防止

③ 発達障害を疑われる子どもと親支援



地域安全防災研修会

10/27(火)

地域安全防災に関する研修



事業づくり研修講座

10/14(水)

事業プログラム企画運営に関する研修
(子どもの居場所づくり)



広報スキルアップ研修講座

10/19(月)

効果的なチラシ・広報誌の作成に
関する研修



人・つながり・地域づくり 研修講座

人・つながり・地域づくりを担う地区センター・公民館職員、市町村担当部局職員等の資質向上を図り、各市町村における生涯学習・社会教育推進上の課題解決を図る研修

①県南会場 8/28(金)

④中部会場 11/18(水)

②盛岡会場 8/31(月)

⑤沿岸南部会場 11/11(水)

③県北会場 9/25(金)

⑥宮古会場 11/30(月)



読書ボランティア研修会

6/2(火)

読書ボランティアの資質向上と読書活動の推進を図るネットワークの形成に関する研修



放課後の子どもの居場所 指導者研修会

①6/12(金) ②10/22(木)

「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の指導者等の情報共有や連携の促進、資質の向上に関する研修

①「子どもの権利条約」に関する研修

②「子どもとの関わり方や職場づくり」に関する研修



地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)等研修会

6/5(金)

地域学校協働活動を推進するコーディネーター等の資質向上に関する研修



詳細は、webサイト「まなびネットいわて」事業計画・研修講座要項のページをご覧ください
<https://manabinet.pref.iwate.jp/index.php/center-menu/r07center-youkou/>



岩手県立生涯学習推進センター 事業報告

11/1(土)実施 センター合同一般公開

「いわて教育の日」の関連事業として当センターを活用した学習体験の機会を提供するとともに、当センターについて知っていただくことを目的に行いました。「ライブ配信体験」「バラスポーツ体験(ポッチャ)」「創作体験(木工キーホルダー)」「ニュースポーツ体験(モルック)」など様々な体験を行い、計69名の小学生と保護者の方々に参加していただきました。参加した皆さんからは、「ポッチャもモルックも難しすぎないルールで楽しく体験できた。またやりたい」、「木工キーホルダーはおしゃべりしながら楽しく作ることができた」、「インタビューするのが楽しかった」などの感想が寄せられました。



YouTuberとなり天気予報に挑戦!



大人気フィンランド生まれのモルックに挑戦!

1/29(木)・30(金)実施 岩手県生涯学習推進研究発表会 ～人づくり・つながりづくり・地域づくりフォーラム 2025～

県内外の生涯学習・社会教育に携わる方を中心に計162名の方に参加していただきました。1日目は基調講演、2日目は当センターが取り組んだ研究調査の発表及び協議、県内の博物館による事例発表を含むパネルディスカッションを行い、「博物館」と「子どもの居場所づくり」について考えを深めました。参加した皆さんからは「博物館の運営を地域と共に考える視点が大切であることを思い出すことができてよかった」「子どもの居場所づくりについて、社会教育行政の立場として何ができるのか、一緒に考えていきたい」等の前向きな感想が多数寄せられ、発表会で大きな学びや気づきを得る様子が伺えました。



大阪国際大学 准教授 五月女賢司氏による基調講演



岩手県立美術館 館長 長内努氏がコーディネーターを務めたパネルディスカッション

1/12(金)～20(金)実施 社会教育主事講習(B)集合研修

社会教育主事・社会教育士の資格を得るため、県内外から14名の方々が参加しました。講師は、岩手県生涯学習振興協会事務局長 佐々木勉氏が務めました。講習では、前半はファシリテートの進め方、熟議体験、ワークショップの立案を行いました。後半はグループに分かれ、実際の市町村を想定した事業計画を立案しました。市町村の現状や課題把握をしっかり行い、柱を立てて施策を考えました。グループで悩みながらも協力して検討を進めました。最終日は各グループで発表を行い、振り返りを行いました。受講者のみなさんは、社会教育主事としての力を身に付ける、濃密で充実した期間を過ごされました。



アイスブレイクの様子



ワークショップの様子

通年実施 情報メディア出前講座

当センター職員が各学校に赴き、子どものスマホ・SNS利用やネットトラブルの実態をもとに、ネット依存の防止やスマホ利用ルールの作り方など、情報メディアとの上手な付き合い方について説明しました。学校での情報モラル授業、家庭教育支援事業、PTA事業、教育振興運動等の一環として、計30件の講座を行いました。子どもからは「親とスマホの使い方を話し合いたい」「SNS以外の楽しいと思えることを探したい」、保護者からは「大人が子どもを守らないといけないと思った」「子どもと話し合って家のルールを決めたい」等の感想が寄せられました。子ども・保護者ともに熱心に受講し、スマホの使い方について考えたり、話し合ったりする良いきっかけになりました。



小学校低学年にもわかりやすく伝えています



会場の子どもとやり取りをしながら進めています